

令和5年度 岡山県農林水産総合センター農業大学校評価システムシート（実績）

教育目標	岡山県農業の次代を担う人材の育成並びに就農支援
------	-------------------------

重点目標	1 農業を志す意欲ある学生の確保		総合評価	B	評価基準 A:十分達成できた (達成度) B:概ね達成できた C:達成できなかった
課題	活動計画（具体的方策）	評価指標（数値目標）	達成度と活動の実施状況	評価	次年度への課題と対応策の対応策
① 幅広い人材確保に向けた学生募集活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパスを3回開催し、1回目は県内農業関係高校を対象を絞りながら、その対象が求める情報提供を行い、農大への進学意欲を醸成する。2、3回目は、特に対象を絞らず多くの方にPRを行う。 学校見学への個別対応等により、農業大学校の理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加人数：延べ100名以上（R4年度実績93名） 学校見学対応件数：10組（R4年度実績：5組） 	<ul style="list-style-type: none"> 参加人数：延べ145名（6/10、7/29、8/26の計3回開催した。学校への理解を深めるため、寮の見学や学生との座談会を実施した。2回目からは申込を電子申請とし、手続きの簡略化を図った。 学校見学対応件数：7組 個別の見学が3組（延べ8名）あり、概要の説明とは場見学等により魅力を説明した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 参加者アンケートや農業高校からの意見を参考に内容を改善し、農業大学校の特色や魅力をPRする。 個別の見学にも柔軟に対応が可能であることや夏の体験学習での見学が可能であることを積極的にPRする。
② 高校との連携強化（農大への理解促進）	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍により従来型の県内全高校訪問は難しいため、訪問先を農業関係高校に絞り、訪問者を校長副校長に絞り訪問効果を高める。 農業高校の校長会への出席や進路担当教諭との連絡会議の開催により、情報交換を行い、課題の把握に努める。 高校の進路ガイダンスに積極的に参画し、情報を提供する。コロナ禍におけるオンラインでのガイダンスにも対応していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校巡回：延べ16校（R4年度実績：延べ17校） 校長会等出席：3回 連絡会議開催：2回（R4年度実績：4回、2回） ガイダンス等参加：20回（R4年度実績：21回） 	<ul style="list-style-type: none"> 学校巡回：延べ26校 農業関連高校を中心に、主に校長と副校長で対応した。一般高校は近年入学のあった3校に絞って対応した。 校長会等出席：3回 連絡会議開催：2回 農業高校校長会等の会議や行事へ出席し高校からの情報収集に努めた。 ガイダンス等参加：20回、170名（校長、副校長、教務課長、研修課長で分担） 	A	<ul style="list-style-type: none"> 例年農業関連高校からの入学が多いため、今後も農業関連高校を中心に学校訪問を実施する。 農業高校からの学生募集に関する要望に配慮したオープンキャンパス等の運営を検討する。 高校ガイダンスは農業関係高校以外からも実施の打診がある。学校PRの有効な手段であり今後も重点的に取り組む。
③ 令和6年度入学生の確保	<ul style="list-style-type: none"> ポスター、チラシ、パンフレット等を作成配布するとともに、ホームページ等により入試情報を発信する。 県内市町村・農協へ文書や電話で、入試に関する情報の広報誌掲載依頼を行い、広く学生を募集する。 学校行事や学校の様子等の動画配信を行い、学校や農業に興味を持ってもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> 志願者数：延べ50名以上（過去5年平均：49.0名）（R4年度実績：55名） 広報誌掲載数：15誌以上（R4年度実績：9誌） ウェブ等を利用した情報発信：3回（R4年度実績：1回） 	<ul style="list-style-type: none"> 志願者数：延べ32名 昨年度から大きく志願者が減少した。4年生大学への進学や就職希望者が多かったことが要因として考えられる。 広報誌掲載数：7誌 市町、JAの広報誌掲載を文書等で依頼した。 情報発信：0回 昨年度各専攻の紹介動画をHPに掲載したため、更新を行わなかった。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 入試情報の周知や農業大学校のPRを積極的に実施するとともに、日程を見直し、定員の確保を目指す。 広報誌への掲載は、高校生に向けたPR効果が薄いと考えられるため、今後はHPでの発信を強化する。 毎年紹介動画を更新するのではなく、イベント等の様子を発信することでコンテンツを充実させる。また、動画での発信に限定せず、日々の出来事を「ミニトピックス」として発信回数を増やす。

※将来の岡山県農業の担い手育成に向け、農業を志す高校生等に対し、農業大学校のPRを行い、幅広い人材の確保を図る。

重点目標	2 農業大学校の魅力向上		総合評価	B		評価基準 A:十分達成できた (達成度) B:概ね達成できた C:達成できなかった
課題	活動計画(具体的方策)	評価指標(数値目標)	達成度と活動の実施状況	評価	次年度への課題と対応策の対応策	
① 質の高い教育の提供(授業内容の充実・強化)	<ul style="list-style-type: none"> 岡山大学教授、専門分野の学識経験者等、外部講師の協力を得て、高度な教育の機会を増やす。 学生満足度調査の分析結果を基に授業への工夫を図っているが、その効果を確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門分野外部講師による授業数：前年実績以上(R4年度実績：11講座268時間) 学生の関心度(満足度)：10点満点の7点以上(R4年度実績：6.9点) 	<ul style="list-style-type: none"> 岡山大学、学識経験者による授業数11講座268時間 民間講師等の講義は29講座592時間 学生の満足度:6.6点 実習や技術習得に関する評価が高く、座学での知識習得に対する不満が多い。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師の授業数を維持するとともに、時代の趨勢に合わせて臨時講座を検討する。 学生に対し、知識習得の到達目標を授業前に示し、学習に対する意欲の向上を図る。 	
② 実践能力の向上(資格取得の促進)	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムに各種資格取得に向け、補習授業で対応する等資格取得を推進する。 日本農業技術検定については、事前の講義での受験対策と、各専攻での専門分野の研修で、合格率アップを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得者数(取得割合)：20%以上(R4年度実績：2名12.3%) 日本農業技術検定2級合格率：20%以上(R4年度実績：10名18.5%) 	<ul style="list-style-type: none"> 農業簿記検定3級:(1人:20.0%)、フラワー装飾技能士2級:(1人:25.0%)、毒劇物取扱者:(2人:20.0%)、危険物取扱者乙種第4類:(0人:0%)、計8.3% 日本農業技術検定2級合格率:7名9.4% 事前の講義での受験対策と、各専攻での専門分野の研修で、合格率アップを図った。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得のためには、学生が目標に向かって自ら努力して学習する動機づけとモチベーションを維持する工夫が必要である。 日本農業技術検定については、事前の講義での受験対策と、各専攻での専門分野の研修で、合格率アップを図っていく。 	
③ 職員の指導能力等資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> 職員の指導能力向上に向け、国等が実施する各種研修へ積極的に派遣する。 	<ul style="list-style-type: none"> 国等研修会参加職員数：1名程度(R4年度実績：2名) 教員研修回数：1回以上(R4年度実績：1回) 	<ul style="list-style-type: none"> 国等研修会参加職員数:4名 ○農作業安全に関する指導者向け研修会、8/23オンライン参加 ○西日本ブロック農業者研修教育施設指導職員研修会、8/2(野菜)オンライン参加、11/1,2(果樹)、12/14,15(花き) 教員研修回数:0回 研修会は実施できなかった。職員会議に教育に係る著作物を紹介した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 国等の研修は、農業大学校での勤務経験が少ない職員を中心に、今後も継続して受講する。 特性を持つ学生が増加していることから、県保健福祉センターに職員研修を依頼する。 	
④ 教育環境の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> 充実した教育環境の整備に向け、機械・施設及び機材の整備、修繕を計画的に進める。 学生寮をはじめとする設備整備に関しては、寮自治会と話し合いながら、お互いの担当領域での整備を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設整備、改修実績(導入実績) 学生の満足度：10点満点の7点以上(R4年度実績：6.5点) 	<ul style="list-style-type: none"> 環境制御機器の導入、pH測定器、乗用草刈機、けん引用トレーラー、現場教室エアコン、防風ネット等の更新などを実施した。 文書約100箱分を廃棄し、所内の整理を行った。 学生の満足度:6.4点 寮の評価が低く、老朽化や規則に対する不満と思われる。機械・設備への評価が低下した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教育環境の高度化に向けて、計画的な教育施設や設備・機械の整備(更新)、充実を図る。 既存文書の整理及び廃棄については終了した。今後も適切に文書整理を実施する。 照明のLED化、教室のエアコンの更新を図ってきており、順次寮のエアコンの更新を進めていく。 	
⑤ 広報活動等の強化	<ul style="list-style-type: none"> HPの内容について十分に検討し、より魅力ある情報発信とする。 収穫祭や新鮮市など地域とふれあう各種イベントに関してはマスコミを積極的に活用し、農大のPRに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> HPの情報発信(更新回数)：50回以上(R4年度実績：37回) 農大通信の発行回数：10回(R4年度実績：2回) 	<ul style="list-style-type: none"> HPの情報発信(更新回数):45回 「ミニトピックス」として日々の様子を発信した。 農大通信の発行回数:6回 イベントの復活もあり昨年度の発信回数を上回った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な発信に加え、日々の出来事を「ミニトピックス」としてまとめ、発信回数を増やす。 	

※教育内容の充実に向け、職員の資質向上に努め、実践的な教育による専門学校としての特色ある学校づくりを推進するとともに、学生の技能・知識の向上を図る。

重点目標	3 就農促進と進路指導体制の強化		総合評価	B		評価基準 A:十分達成できた (達成度) B:概ね達成できた C:達成できなかった
課題	活動計画(具体的方策)	評価指標(数値目標)	達成度と活動の実施状況		評価	次年度への課題と対応策の対応策
① 就農意欲の醸成	<ul style="list-style-type: none"> 1年生対象の先進農家留学研修により就農への動機付けを行う。その際、留学先、内容は就農を意識し選定する。 農大OBや新規参入者との意見交換、農業生産法人説明会により、農業経営をより深く理解する機会を提供し、就農意欲の醸成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 就農者率50%以上(就農率: R3年度46%、R4年度24%) OBや農業後継者との意見交換会: 2回 	<ul style="list-style-type: none"> 就農者率: 30% (自営就農1人、法人就農8人) 今年度は農機等関連企業への就職が多かった。卒業後、就農を目指して研修に入る1人は含めていない。 先進農家留学研修は、前期、後期ともに完全実施できた。 農大OBや農業後継者との意見交換会: 4回 農業法人等求人説明会を2回(5/25、6/1)、計10社参加のもと開催し、就農意欲の醸成を図った。 アグリ・夢・みらい塾(7/24)に6人が参加し、農業経営者の話を聞いて、将来の新規就農のきっかけづくりを図った。 岡山県新農業経営者クラブ連絡協議会会員と意見交換会を実施し、就農への意識醸成を図った(11/20)。 		C	<ul style="list-style-type: none"> 学生及び保護者の意向を十分把握した上で就農への動機付けを行う。 生産基盤がない非農家出身の学生が多いため、研修後就農や農業関連団体・企業への就職についても評価対象とする。 農業法人説明会や新農業経営者クラブ員との意見交換会は継続して実施するとともに、積極的に会社見学やインターンシップを行い、進路決定を支援する。
② 進路選択・決定の早期意識付け	<ul style="list-style-type: none"> 民間と連携したセミナーの開催等、早期から進路に対する動機付けを行う。 進路指導においては各専攻の担当と十分な情報共有を行い、適切な進路指導を行う。 進路希望調査、個人・三者面談等により、進路希望・就職活動状況を把握し、進路指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年時末の進路目標決定者割合: 100% 2年時10月末の内定率: 60%以上 (R3年度実績: 85%) (R4年度実績: 86%) 	<ul style="list-style-type: none"> 1年時末の進路目標決定者割合: 100% キャリアコンサルタントや若年者地域連携事業との連携によるキックオフセミナーを開催した。 2年時10月末の内定率: 71% (22人) 3月の企業説明会解禁に対応して、1年時の終わりからES作成や面接の練習を実施した。 1年時の夏季ならびに冬季休業時に進路希望調査を行い、その結果を踏まえた面談を実施した。 		A	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き1年時の秋季から就農を含めた進路決定に向けた動機づけを行うとともに、学生の進路に関する希望を的確に把握して専攻の担当と共有しながら早期の進路決定につなげる。
③ 卒業時の進路決定	<ul style="list-style-type: none"> 農業法人の説明会や、農業関連企業へ就職したOBとの座談会等を開催し、農業関連の就職先への学生の理解を深める。 個別指導の強化により、求職と求人とのマッチングを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業時進路決定率: 100% 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業時進路決定率97% 2年生を対象とした農業法人求人説明会を2回(10社)実施したほか、1年生を対象に自営就農者や農業法人及び農業関連企業に就職したOBとの座談会を開催し、職業観の醸成に努めた。 選考に臨む前に専攻の担当を交えたESの添削や面談練習を複数回実施したほか、就職活動の立ち上がりが遅い学生を対象に積極的な企業説明会への参加を促し、ミスマッチの解消に努めた。 		A	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、本人の意向を尊重した進路指導を継続して実施すると共に、特性を考慮した支援が必要な学生に対しては、家族や専門家を交えた進路指導を行う必要がある。

※進路意識、就職活動意識の高揚を図るとともに、基礎学力の向上の他、履歴書・エントリーシート等の作成など進路決定に向けた支援の充実、体制の強化を進める。

重点目標	4 地域の担い手に対する研修による多様な人材の育成		総合評価	A		評価基準 A:十分達成できた (達成度) B:概ね達成できた C:達成できなかった
課題	活動計画(具体的方策)	評価指標(数値目標)	達成度と活動の実施状況	評価	次年度への課題と対応策の対応策	
① 農業経営の発展に向けた研修の充実強化	<ul style="list-style-type: none"> 農業経営に必要な資格免許として、応用技術研修(トラクター、けん引、小型建機、アーク溶接、フォークリフト)を実施する。 受講者へのアンケートを実施し、研修内容をより充実していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 受講者数(資格取得者数) 資格取得者 50名以上 (R4年度実績:58名) 研修者の満足度10点満点の8以上 (R4年度実績:9.1) 	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得者 66名 小型建機 27名 トラクター 14名 けん引 7名 アーク 6名 フォーク 12名 研修者の満足度:9.0 	A	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、資格取得を促進するため、研修や申請のサポートを行う。 	

※実践的な農業体験の場の提供と関係機関等との連携による即戦力となる人材の育成を図るとともに就農定着を進める。